

今回は、5月22日に行われました平成28年度口腔顔面痛専門医試験について、専門医等認定委員長の佐久間 泰司先生に、報告していただきます。

## 平成28年度口腔顔面痛専門医試験

大阪歯科大学歯科麻酔学講座 佐久間 泰司

平成28年5月22日(日曜日)、口腔顔面痛専門医試験を佐藤 仁先生(慶應大学口腔外科)お1人が受験されました。

会場は慶應大学北里記念医学図書館。間違っって北里大学医学部に行かれたら困るなと思いましたが、さすがにホームグラウンドでそれはなかったです。佐藤先生は「暫定制度を利用していない、最初の正統な口腔顔面痛専門医の候補」なので、試験会場では極度に緊張しておられました。受験生1名でお気の毒な限りです。

しかし、最初の試験の重圧に耐えかねたのは試験官の方だったようです。学会重鎮のI教授が、あれも聞きたい、これも聞きたい、これも確認しよう、これも大事と、予定を大幅に超過して口頭試問を続けました。佐藤先生、誠にご愁傷さまでした。その試問の嵐をくぐり抜け、佐藤先生は優秀な成績で第1号正統派口腔顔面痛専門医となりました。今後は昭和大学でご活躍とのこと、大いに期待しています。

3年の研修で受験できる専門医筆記試験は2名の受験があり、お2人とも優秀な成績で合格されました。専門医筆記試験合格者は合計で13名、この先生方が専門医試験(口頭試問)に進まれるのを心待ちにしています。来年はI教授も時間を守って口頭試問をされるでしょうから、ご安心ください。

さらに認定医試験の採点・審査も行い、5名の先生が合格されました。以上の新しい仲間を加え、本学会は指導医73名、専門医25名、認定医35名の陣容となりました。

本学会は、歯科の全部門を「ペイン」をキーワードに横断的に結ぶ学会です。医科のペインクリニックは神経ブロック抜きにはありえません。我々は当然それを含むだけでなく、歯を中心とした疼痛疾患との鑑別、診断、治療など、歯科医師でなければできない仕事も含んでいます。研修カリキュラムも、補綴、口腔外科、歯科麻酔などの既存の専門の枠内だけでは終わらないように設計されています。心身医学に関する講習も瀬尾理事が精力的に開催していますが、これも受講が強く推奨されます。神経ブロックをするなら歯科麻酔専門医になればよいですし、非インターベンショナルな治療なら補綴専門医になればよいだけです。本学会の存在意義、目指す専門医像は、その全てを含む総合的なものです。

多くの先生方が口腔顔面痛専門医を目指し、この学会や専門医像を作られてゆかれることを期待しています。



試験会場には福沢諭吉、北里柴三郎を始め、慶應の重鎮の額が並ぶ。

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷

株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960

E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp